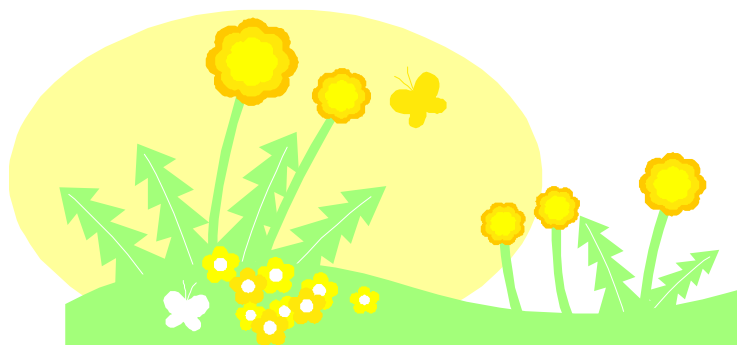




私たち医療スタッフは

- I 入院や抗がん剤治療に対する不安を軽減し、最良の状態で治療が受けられるようにお手伝いします
- II 抗がん剤治療の副作用や苦痛を軽減し、安全に治療を続けることができるようにお手伝いします



Pembro + CBDCA + PTX療法

(ペムブロリズマブ + カルボプラチン + パクリタキセル)

さま

四国がんセンター
乳腺外科

主治医／担当医

受け持ち看護師

2025年2月12日 作成
2026年8月3日 改訂

化学療法を受けられる方へ

化学療法とは「抗がん剤を使って病巣や目に見えない
全身のがん細胞を攻撃しておさえる方法」です

3週間を1クールとし、4クール行います
点滴は1週間に1回のペースで行います

1クール目の1回目と2回目の点滴は入院で行い、3回目以降は
外来で行う予定です

点滴の時間は3時間程度の予定です

抗がん剤の投与時期や量は、患者さんの体調や検査結果によって
変更されることもあります

※治療前には血液検査を必ず行います

●抗がん剤治療を受けられる前に

パクリタキセルの薬の中にはアルコールが含まれています

薬剤やアルコール綿等でアレルギー症状が出たことのある方は
医師・看護師にお知らせください

治療前の歯科受診について

◆治療時に起こる口のトラブルを予防し治療が円滑に進むように、
治療開始前の歯科診察を行っています

◆治療前の歯科受診では、以下を行います

- ・レントゲン検査・診察（口腔内の状態を診る）
- ・歯ブラシだけではとれない細菌の除去
- ・適切なセルフケア（歯磨き、うがい）指導

◆通常1～2回の受診で終わることができます



口の中はとても細菌の多い場所です

治療中や治療後にその細菌が悪影響を及ぼすことがあります

特に、治療後の口内炎・肺炎等を防ぐには治療前から口の中を
きれいにし細菌をできるだけ減らしておくことが有効です

排便について

普段からご自身の便の性状を確認し、入院中に排便調整の目安や方法を医療スタッフと一緒に確認しておきましょう

排便回数が4回以上増えたとき、下記の表の6（泥状便）～7（水様便）の排便が続くとき、周期的に腹痛があるときはすぐに医療スタッフに伝えましょう

3日以上排便がない、いきまないと便が出ない、便は毎日出ているがすっきり感がなく腹部膨満感などの症状があるときは、排便回数や性状によって緩下剤を使用します

※排便の状況や下痢・便秘の辛さは人によって違います

※排便のコントロールが難しい場合は看護師と解決方法を相談しましょう

便の性状について（ブリストルスケール）

ブリストルスケールは、便のタイプ（硬さ）を7種類に分類した世界共通の尺度です

自分の便のタイプを知り、排便調整の参考にしましょう

1	コロコロ便		硬くてコロコロの 兔糞状の便
2	硬い便		ソーセージ状であるが 硬い便
3	やや硬い便		表面にひび割れのある ソーセージ状の便
4	普通便		表面がなめらかで柔らかい ソーセージ状、あるいは 蛇のようなとぐろを巻く便
5	やや軟らかい便		はっきりとしたしわのある 柔らかい半分固形の便
6	泥状便		境界がほぐれて、ふにゃふにゃの不定形の 小片便 泥状の便
7	水様便		水様で、固形物を含まない 液体状の便

入院中の生活の注意点



- ◆治療中は免疫力低下のため、感染リスクが高くなります
マスクの着用、手洗い・うがいをしましょう
入院中、手洗いの動画をテレビの無料チャンネルで視聴できます
- ◆口の中は清潔にするように心がけましょう
- ◆排泄を促すために水分をしっかりととりましょう
- ◆膀胱に尿が溜まったままの状態は、腎臓や膀胱に負担がかかり
炎症を起こすことがあります
尿意を感じたら、我慢をしないでトイレに行きましょう
- ◆排尿時に痛みや残尿感がある場合には看護師にお伝えください
- ◆抗がん剤治療開始から治療後2日間ほどは、尿や便などから抗がん剤が排出されます
尿や便に直接触れても健康に直接被害を及ぼすことはありません
ができるだけ周りに広げないように以下のことに注意しましょう
- 尿がこぼれた場合は、トイレットペーパーできれいに拭き取り、
トイレに流しましょう
2度拭き取ると良いでしょう
- トイレの後、フタがある場合は、
フタをして水を2回流しましょう
- トイレのあとは石けんなどでよく手を洗いましょう
- ナプキンや尿とりパッドを使用している場合は、看護師にお知らせください
 - * 使用済みのナプキンや尿とりパッドは、ナイロン袋に入れて口を結びましょう
 - * トイレからナースコールを押して、看護師に渡しましょう
- 尿や吐いてしまったもので衣類が汚れた場合は、ほかの洗濯物と分けて洗濯しましょう



ダイアリー

このパンフレットには、当院での標準的な治療や日常生活で注意していただきたいポイントなどを記載しています

また、よりよい状態で退院を迎えられるように**患者さんご自身の目標**と**医療スタッフの目標**をあげています

入院は約10日間の予定です

治療後の回復は、個人差があり、体の状態によっては予定どおりにすすまないこともあります、その都度対応していきますのでご安心ください

私たち医療スタッフは、これからの入院生活を不安なく送れるように支援させていただきます





今日の目標

- ・治療の必要性、副作用について理解できる
- ・医療スタッフの説明が理解できる

<時間>

<予定>

11:00

入院

【入院後に以下のことを予定しています】

- ・看護師から病院内、病棟内、入院生活の説明

12:00

昼食

(テレビの病院案内も参考にしてください)

- ・検温、血圧測定、身体測定
- ・連絡先、既往歴、生活習慣などの聞き取り
- ・歯科受診
- ・血液検査、尿検査
- ・医師、薬剤師より抗がん剤治療の説明があります
- ・サインをした同意書は、看護師にお渡しください
- ・初回治療のときは、管理栄養士より病院食や食事の工夫について説明があります
2回目以降、味覚障害や食欲不振等がある場合、栄養指導を希望される場合はお知らせください

<お薬>

18:00

夕食

- ・他の病院で処方された薬は一度お預かりします
医師に確認後、続けるか中止するかをお伝えします

<食事>

21:30

消灯

- ・食物アレルギーのある方は医療スタッフにお知らせください
- ・基礎疾患（糖尿病、高血圧等）がある方は治療食になる場合があります



薬剤師から治療の流れや副作用の説明があります
キイトルーダの注意点について詳しく記載された
冊子をお渡しします
治療が開始したら、毎日治療日記を記入しましょう

※2回目以降の入院の方は、治療日記を確認します
キイトルーダ治療ハンドブック P.8～P.23に記載されて
いる症状（息苦しさ、下痢、皮膚の症状など）があるとき
は、看護師にお知らせください

MEMO

気になることや症状など書き留めておきましょう

医療タッフの目標

- ・安心して治療が受けられるように支援します





今日の目標

- ・安全に治療を受けることができる
- ・治療の副作用について理解できる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血圧測定

7:30

朝食

過敏症、点滴部位の痛み・血管痛、吐き気・嘔吐、
便秘、下痢について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

治療前にトイレに行きましょう

※治療の予定については薬剤指導の紙をご覧ください

- ・点滴は3時間程度の予定です

<午前治療の場合>

10:00頃から点滴を始めます

シャワー浴は朝（9:00頃）または、点滴終了後体調に合わせて行いましょう

<午後治療の場合>

13:30頃から点滴を始めます

シャワー浴は、午前中に行いましょう

- ・点滴中は、副作用を早期発見するために付き添ったり、頻回に訪室します
- ・パクリタキセル投与開始後は、アレルギー症状の早期発見のために10分間付き添い、状態の確認をします
- ・初めてパクリタキセルの治療を受ける場合は心電図モニターを装着します
- ・息が苦しい、胸が痛い、ドキドキする、体が熱いときなどは、すぐに知らせてください
- ・針の入っているところが赤くなった、腫れた、痛いときなどは、すぐに看護師へ知らせてください
- ・点滴のもれを防ぐために、看護師が身の回りのことをお手伝いします

<時間>

<予定>

12:00

昼食

吐き気の強いときは追加で
薬を使うことができます
遠慮せず看護師にお伝えください



- 点滴中は、トイレなどの歩行時、転倒に注意しましょう
- 点滴台を支えにして歩くと転倒の可能性があります
支えにしないようにしましょう

18:00

夕食

19:00

検温、血圧測定



治療開始後は
フタをして水を
2回流しましょう

21:30

消灯

MEMO

気になることや症状など書き留めておきましょう

医療スタッフの目標

- 副作用症状の早期発見に努めます
- 抗がん剤の血管外漏出予防に努めます





今日の目標

- ・治療の副作用について理解できる
- ・副作用症状のコントロールができる

<時間>

<予定>

6:00

起床

針の入っていたところが赤くなった、腫れた、痛いときなどはすぐに看護師へ知らせてください
便が出にくいときは緩下剤を服用しましょう

7:30

朝食

水分をしっかりととりましょう
治療日記を記入しましょう

10:00

検温、血圧測定

治療2日目：脱毛、味覚障害・食欲不振について
治療3日目：倦怠感、関節痛・筋肉痛、皮膚障害、爪のトラブル、神経障害について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照
「がん治療による脱毛に備えて（頭髪編）」パンフレット参照
「がん治療による爪のトラブルについて」パンフレット参照
「関節痛・筋肉痛」ページ参照

12:00

昼食

活動の制限はありません
シャワー浴ができます



18:00

夕食

21:30

消灯



フタをして水を
2回流しましょう

医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます





今日の目標

- ・日常生活の注意点について理解できる
- ・副作用症状のコントロールができる

<時間>

<予定>

6:00

起床

便が出にくいときは
調整しながら緩下剤を服用しましょう

7:30

朝食

水分をしっかりととりましょう
治療日記を記入しましょう

10:00

検温、血圧測定

活動の制限はありません
シャワー浴ができます



12:00

昼食

治療5日目：口内炎について説明します
治療6日目：息切れ・動悸について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

通院治療室についての説明と見学を行います
「外来で抗がん剤点滴治療を受けられる方へ」ページ参照

18:00

夕食

21:30

消灯

医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます





今日の目標

- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる
- ・副作用症状のコントロールができる

<時間>

<予定>

6:00

起床

水分をしっかりととりましょう
治療日記を記入しましょう

7:30

朝食

便が出にくいときは緩下剤を
調節しながら服用しましょう

9:30

血液検査

10:00

検温、血圧測定

活動の制限はありません
シャワー浴ができます

12:00

昼食



血液検査の結果と骨髄毒性について説明します
「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

退院後の日常生活について説明します
「退院後の日常生活について」ページ参照

18:00

夕食

感染予防のために手洗い・うがいは
しっかりしましょう

21:30

消灯

医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます
- ・退院後の日常生活に不安や心配ごとがないように支援します





今日の目標

- 安全に治療を受けることができる
- 副作用症状のコントロールができる
- 退院後の日常生活の注意点について理解できる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血圧測定

水分をしっかりとりましょう
治療日記を記入しましょう

7:30

朝食

- 点滴は2時間～2時間30分程度の予定です
□10:00頃から □13:30頃から点滴を始めます
治療前にトイレに行きましょう
シャワー浴は、午前中または点滴終了後体調に合わせて行いましょう
- 点滴中は、付き添ったり頻回に訪室します
- 息が苦しい、胸が痛い、ドキドキする、体が熱い、針の入っているところが赤くなった、腫れた、痛いときなどはすぐに看護師へ知らせてください

12:00

昼食

退院後の日常生活について説明します
「退院後の日常生活について」ページ参照

18:00

夕食



治療開始後は
フタをして水を
2回流しましょう

19:00

検温、血圧測定

感染予防のために手洗い・うがいは
しっかりしましょう

21:30

消灯

医療スタッフの目標

- 副作用症状の早期発見の努めます
- 抗がん剤の血管外漏出予防に努めます
- 退院後の日常生活に不安や心配ごとがないように支援します





今日の目標

- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる
- ・退院できる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血圧測定

水分をしっかりととりましょう
治療日記を記入しましょう

7:30

朝食

お預かりしている薬、退院の薬がある場合は
お渡しします
次回外来予約票をお渡しします

10:00

退院

退院前に忘れ物がないようにご確認ください
「入院診療費料金連絡票」を病室にお届けしますので、
2階でお支払ください



治療後2日間は尿や便から
抗がん剤が排泄されます
排泄後、フタをして水を
2回流しましょう

医療スタッフの目標

- ・退院後の日常生活に不安や心配ごとがないように支援します





ウィッグ以外にも
＼ お役立ち製品が色々♪ ／



ウィッグ 帽子 ヘア用品
ネックカバーなど

メイク ネイル用品

治療によって脱毛・肌や爪のトラブルが起こる可能性がある方に
上記展示品の案内や試着を行っています

お住まいの自治体によっては、治療に伴うウィッグに関する助成
制度を設けています
詳しくは本館2階『がん相談支援センター』でご相談ください

※暖だんでの販売は行っておりません

気になる製品については、購入方法をお伝えしています

● 関節痛・筋肉痛



1. 定義

筋肉や関節に痛みが生じることをいいます

2. 筋肉痛・関節痛の時期

投与後3～5日後に症状が現れ、症状のほとんどが一時的なもので、数日以内におさまってきます

3. 症状

腰や腕、背中や肩の筋肉に痛みを感じたり、ひざ・ひじの関節などに痛みを感じる場合があります

4. 治療方法

つらいと感じるときは、痛み止めの薬（内服や湿布）を使用して症状の軽減をはかります

5. 予防方法（日常生活の注意点）

- 入浴などで体を温めたり、適度なマッサージで筋肉をほぐし、血行を促進してみましょう
- 同じ姿勢でいると筋肉や骨の萎縮をまねきやすいので、無理のない適度な運動を心がけると良いでしょう

外来で抗がん剤点滴治療を受けられる方へ

通院治療の流れ

①受付



B受付

②採血
中央処置室



☆採血時のお願い☆

採血時に注意することは退院前に確認しておきましょう
点滴予定の腕とは反対の腕で採血しましょう



採血結果が出るまで、
約30分～1時間かかります

A受付

呼吸器科
消化器科
緩和ケア
感染症腫瘍内科
骨軟部腫瘍・
整形外科
禁煙外来

B受付

泌尿器科
血液腫瘍内科
原発不明がん
診療科

③診察受付

④診察

治療決定

C受付

乳腺外科
婦人科
形成外科
頭頸科・甲状腺腫瘍外科
歯科
病理診断科

S受付

消化器内科
糖尿病内科
内分泌内科
循環器内科
皮膚科
眼科
精神科
脳神経外科
リンパ浮腫
がんゲノム医療外来

S受付

⑤治療
通院治療室

看護師が点滴の針を刺し、
確認後に抗がん剤を開始します

治療終了

検査や他の診療科で診察のある方は、各受付へ

検査の説明を受ける方は、予約センターへ

予約センターは
B受付の隣です

⑥会計

処方箋もすべてファイルに入れたまま総合受付 **6番窓口** に提出してください。

***お薬の処方がある方へ**

6番窓口で処方箋をお渡しします。4日以内にお薬をお受け取りください。



通院治療室での過ごし方

- 外来で初めて治療を受ける方は、説明と確認を行うため、少し時間がかかります。
- 入室時に、ベッドか椅子を選択できますが、混雑時にはご希望に添えないこともあります。
- テレビは無料で利用できます。ラジオや音楽プレイヤー等の持ち込みも可能です。ご利用される場合にはイヤホンをご用意ください。
- 携帯電話はマナーモードに設定し、通話をご遠慮ください。
- 通院治療室内での飲食は可能ですが、においの強いものはご遠慮ください。飲食される方は、各自でご準備ください。
- トイレは通院治療室内のトイレをご使用ください。男女兼用ですが、3か所あります。
- 付き添いは原則ご遠慮いただいております。ご家族の待機場所として「暖だん」や「図書コーナー」などがあります。
- 副作用や日常生活で困っていることや相談したいことがあれば、いつでもスタッフに声をおかけください。





遺伝性腫瘍(がん)について

お気軽に

このような方は、ご相談ください。

血縁者に
がんが多い

若くして
がんができる

日本人では、2人に1人が生涯のうちに
にがんにかかると言われています。

よって、家系内にがん患者さんが
複数いることは珍しいことでは
ありません。

何度も
いろいろな
がんができる

当院では、専門知識をもった
臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセ
ラーから、医学的な観点より
遺伝性腫瘍や遺伝子検査について
詳しくお話しさせていただきます。



ご 相 談 に つ い て

遺伝性がん診療科では、患者さんとそのご家族を対象として、家族歴や場合によって遺伝子診断に基づいて、がんの発症にかかわる遺伝的要素について検討します。遺伝的要素ががんの発症にかかわっていることが考えられる場合には、がんの早期発見のための方法等についてアドバイスし、今後の健康管理に役立てていけるように支援いたします。

相談は十分に時間をかけてお話を伺うため、完全予約制です。

事前に「がん相談支援センター」へ直接あるいは電話にてご予約ください。なお、相談は個室で行い、内容は外部に漏れることのないよう厳重に管理いたしますので、ご安心ください。

お問い合わせ



＜時 間＞8：30～17：15（土・日・祝日を除く）

＜窓 口＞がん相談支援センター

＜電 話＞089-999-1114（直通ダイヤル）

「遺伝性のがんに関する相談」とお伝えください。
遺伝カウンセラーが対応いたします。

お子さんがいらっしゃる 患者さんへ



「お母さん、大丈夫かな」 「お父さん、元気になるよね」

がんの治療はそれだけでも大きなストレスとなりますが、患者さんに子どもがいる場合、その負担はより大きくなるといわれています

また、子どもにとっても親の病気は大きな出来事です
子どもは、たとえ病気のことを聞かされていなくても、
普段とは違った家族の様子に気づいているといわれます
子どものストレス反応は、年齢、性格、環境などによっては

さまざまですが、周囲のサポートを得ながら、
子どもはその困難を乗り越えて行く力を持っています



当院では、患者さんができるだけ安心して
療養生活を送ることができるように、
それぞれのご家庭の状況に応じ、お子さんも視野に入れた
ご家族全体の支援をおこなっていきます

何をするの？

大人(患者さん・ご家族)の方々へ

子どもに関する様々なご相談に対応します

子どもへの関わり方、気になる言動など、丁寧にお話を伺いながら、最善の支援体制を一緒に考えます

状況によっては、教育機関や小児医療、福祉施設との連携も視野に入れてサポートします

何をするの？

お子さんへ

遊びや会話を通して、子どもの考えや感じていることを引き出し、受け止めます。その上で、年齢に応じた病気の説明やストレスマネジメントなどの心理教育をおこないます

また、院内探検などを通じて、病気に対する怖さを取り除き、子どもの持つ社会的な学習意欲を大切にします

誰に言えばいいの？

がん相談支援センター、または、病棟スタッフにお声かけください

子どもの心理、行動に詳しい臨床心理士などが対応します



Q&A

Q：治療期間中に旅行に行きたいのですが・・・

A：治療にはあらかじめ、スケジュールが決められています
治療をスケジュールどおりに行うことは大切ですが、
旅行はもちろん気分転換活動を行うなど、治療前と同じような生活を送ることによって、ストレスをためないことは、
治療を続けていく「ちから」になります
旅行の時期については、体調をみて、主治医と相談しながら決めていきましょう

Q：治療後、月経がなくなったのですが・・・

A：薬剤によっては、卵巢機能に影響を与えるものもあり※1
女性ホルモンの生産低下や停止をもたらすものもあります
卵巢機能への影響・・・[月経周期の乱れ](#)、[無月経](#)※2
[更年期障害](#)（のぼせ、ほてり、冷え症、発汗異常、動悸、めまい、うつ状態、イライラ感、不眠、頭痛、手足のしびれなど）に似た症状が起こる場合もあります

※1 卵巢機能障害は、薬の種類、投与量、患者さんの年齢などにより異なります
今回使用するエンドキサンは、卵巢機能障害を起こしやすい薬剤とされています

※2 無月経は、一時的な場合と、永久的な場合があります
月経が戻る場合は、治療終了後3～6か月後に再来することが多いようです



Q：抗がん剤治療中、性生活を控えた方がいいですか？

A：特に制限はありませんが、抗がん剤による胎児への影響がありますので必ず避妊してください
白血球や血小板などが減少する時期には感染や出血がおきやすいため、一時的に控えたほうが良いでしょう

Q：では、妊娠することはないのでしょうか？

A：ホルモンの調整は、脳からの指令によって行われています
抗がん剤は、卵巣に作用しますが、脳の指令を出す部分への影響はないと考えられています
そのため、**妊娠する可能性はあります**
閉経前の方は治療で月経が停止しても、**避妊は必要**です

影響を与える要因となるもの

①**薬剤の用量および治療回数**

用量や治療回数が、多いほど妊娠する可能性が低くなります

②**年齢**

閉経期に近い方ほど妊娠に影響を与えます

1年以上たてば妊娠しても大丈夫ですが、一般的に乳がん治療後1～3年以内に再発することが最も多いことから、少なくともこの期間は妊娠を待つことが安全と考えられています

治療後その期間はパートナーにも協力を求めて、避妊を行っていくようにしましょう



退院後の日常生活について

●食事

特に制限はありません

バランスの良い食事を心がけましょう

食欲がないときは無理をせず、食べやすいものを
食べられるときにとるようにしましょう



白血球が減少している時期は、残り物や消費期限切れの物を
召し上がらないようにご注意ください

●お薬

医師の指示どおりに服用しましょう



* 37.5℃以上の発熱がある場合の対応について

- ・処方されている抗生物質を服用してください
- ・抗生物質は飲み始めたら、熱が下がっても処方されている
期間は飲み続けましょう
- ・ただし、飲み始めて「湿疹がでる」「下痢がひどい」など
異常があれば服用をやめ、がん相談支援センターに相談し
ましょう

●活動

特に制限はありません

白血球が減少している期間は、風邪をひきやすかったり熱が
出やすいため、外出時マスクをしましょう

外出や買い物は比較的人ごみの少ない時間帯をお勧めします

●清潔

皮膚に付着している常在菌を減らすために、可能な限り毎日入浴やシャワー浴をして体を清潔にしておきましょう

（ただし、発熱時やだるさが強い場合は控え、温かいタオルなどで体を拭くようにしましょう）

うがい・歯磨きをして口の中を清潔に保ちましょう

歯ぐきの傷つきを防止するため、歯ブラシは小さく毛の柔らかいものを使いましょう

●排泄

規則的な排便習慣を身につけるようにしましょう

便秘のときは処方便秘薬を調整して服用してください

処方されていないときは、市販便秘薬を服用してもかまいません（下痢になったら下剤は中止しましょう）

下痢のときは市販の整腸剤を服用してもかまいません

●治療日記

退院後も、治療日記は毎日記入しましょう

治療日記は、次回受診時にお持ちください

キイトルーダ治療ハンドブック P8～P23に記載されている症状（息苦しさ、下痢、皮膚の症状など）があるときは、医療スタッフにお知らせください

●副作用確認シート

退院までに、「免疫チェックポイント阻害薬 副作用確認シート」をお渡しします

次回外来受診または入院時に、記入した副作用確認シートをお持ちください

記入方法は、次ページの記入例を参考にしましょう

●その他

外来受診は必ず受けるようにしましょう

外見の変化（脱毛、爪、皮膚のくすみなど）に関して気になることがあれば、患者・家族総合支援センター「暖だん」で情報を用意していますので、お気軽にお立ち寄りください

通院治療室に来られる際は、パクリタキセルはアルコールを含むため、点滴後は車の運転などに注意が必要です

点滴後は十分休息をとるか、公共の交通機関の利用をおすすめします

また、転倒予防のため履き物はヒールなどは避け、足にあった歩きやすい靴にしましょう



記入例

青字は記入例です

免疫チェックポイント阻害薬 副作用確認シート



ID (診察券番号) : 123456

記入日 : 2025 年 4 月 1 日

氏名 : 四国 太郎

1. 下記の該当する症状に☑を記入してください

重症筋無力症・筋炎

- ☐ まぶたが下がってくる
- ☐ 物が二重に見える
- ☐ 筋肉痛がある

1型糖尿病

- ☐ 喉がひどく渇く ※ 1
- ☐ 尿の回数が増える

大腸炎・下痢

- ☐ 下痢が続く
- ☐ 便に血が混じる

間質性肺炎/心筋炎

- ☒ 息苦しい
- ☐ 動悸がする
- ☐ 咳が増えた
- ☐ 37.5℃以上の発熱 ※ 2

内分泌障害

- ☐ 体がだるい
- ☐ 食欲が落ちる
- ☐ 吐き気が続く

皮膚障害

- ☒ 発疹がある
- ☒ 皮膚に痒みがある

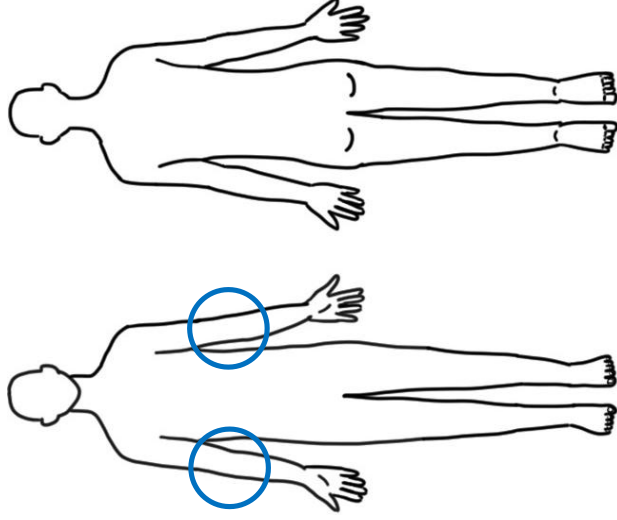
神経障害

- ☒ 手足のしびれがある
- ☐ 力の入りにくさを感じる

静脈血栓塞栓症

- ☐ 足にむくみや腫れがある

症状がある部位に
○を記入してください



正面

背面

2. 各症状について、下記の該当する状況すべてに☑をしてください
(退院後～当院受診まで/前回受診～今回受診までの体調をお答えください)

症状	グレード	0	1	2	3
対処			症状がづらい場合は 病院に相談しましょう	症状が2-3日続く場合 速やかに病院へ 連絡しましょう	速やかに病院へ 連絡しましょう
呼吸困難 (息苦しい)	☐ ない	☐ 階段や坂道を登る際に 息切れがある	☒ ゆっくり歩行した際に息切れ はあるが、日常生活はできる	☐ 息切れのため、身の回り のことできない	
倦怠感 (体のだるさ)	☒ ない	☐ 急にだるさが出てきたが 休むと回復する	☐ 急にだるさが出てきて 持続するが日常生活はできる	☐ 急にだるさが出てきて 身の回りのこともできない	
食欲不振	☐ ない	☐ 食欲低下を感じるが 食事は変わらない	☒ 食欲低下を感じ、食事が 減った	☐ ほとんど食べられない	
嘔吐	☒ ない	☐ 1日1-2回吐く	☐ 1日3-5回吐く	☐ 1日6回以上吐く	
下痢	☒ ない	☐ 普段と比べて、1日1-3回 下痢が増えた	☐ 普段と比べて、1日4-6回 下痢が増えた	☐ 普段と比べて、1日7回 以上、下痢が増えた	
筋力低下 (力が入りにくい) (部位：)	☐ ない	☐ 明らかな筋力低下はないが 力の入りにくさを感じる	☒ 明らかな筋力低下はあるが 日常生活はできる	☐ 明らかな筋力低下のため 身の回りのこともできない	
※ ¹ 喉がひどく渇く	喉がひどく渇く状態が2日続く場合、速やかに病院へ連絡しましょう				
※ ² 発熱 (38.0℃以上)	38.0℃以上の発熱が2日続く場合、速やかに病院へ連絡しましょう				
その他の症状 (気になること等)	時々頭が痛い めまいがする				

次回入院で治療する場合は、病棟看護師または薬剤師にお渡しください
次回外来で治療する場合は、各診療科の受付にお渡しください



- 抗生物質を飲みきっても37.5℃以上の発熱が続くとき
- 吐き気、嘔吐があり、食事や水分がほとんどとれないとき
- 整腸剤を服用しても水のような下痢が続くとき
- 体を起こすことが辛いほどの強いだるさが何日も続くとき
- キイトルーダ治療ハンドブックP22、P23
「キイトルーダの副作用として予測される症状」に記載されている症状で、生活に支障を来すようなひどい症状があるとき

上記のような症状がある場合やその他ご心配なことがある場合は
がん相談支援センターにご連絡ください

◆四国がんセンターの連絡先◆

【平日】 8：30～17：15
四国がんセンター がん相談支援センター
(直通番号) 089-999-1114

【平日上記時間外および土・日・祝日】
日直/夜間当直師長
(代表番号) 089-999-1111

翌日以降の外来受診日や検査予約日の変更
【平日】 13：00～17：00
四国がんセンター 予約センター
(直通番号) 089-999-1112

Pembro+CBDCA+PTX療法
(ペムブロリズマブ+カルボプラチン+パクリタキセル) を受けられる方へ